


新浜揚陸施設における ビオトープの整備・管理運営の取り組み



(独) 水資源機構 琵琶湖開発総合管理所
環境課
永江 啓師

目次

- ・ 新浜揚陸施設とは
- ・ 新浜ビオトープ整備の経緯
- ・ ビオトープ整備後の状況
- ・ 今後の方針と課題

1. 新浜揚陸施設とは



新浜揚陸施設

- ・ 水資源機構管理施設
(面積：約5.0ha)
- ・ 琵琶湖開発事業時、瀬田川・南湖
浚渫土砂の仮置き場
- ・ 国・滋賀県の公共事業でも利用さ
れている
- ・ 近江大橋に隣接しており、人目に
付きやすい

【雑草・雑木が茂り景観上好ましくない状況】

平成18年撮影
新浜揚陸施設内



土砂処理の問題等により整備困難

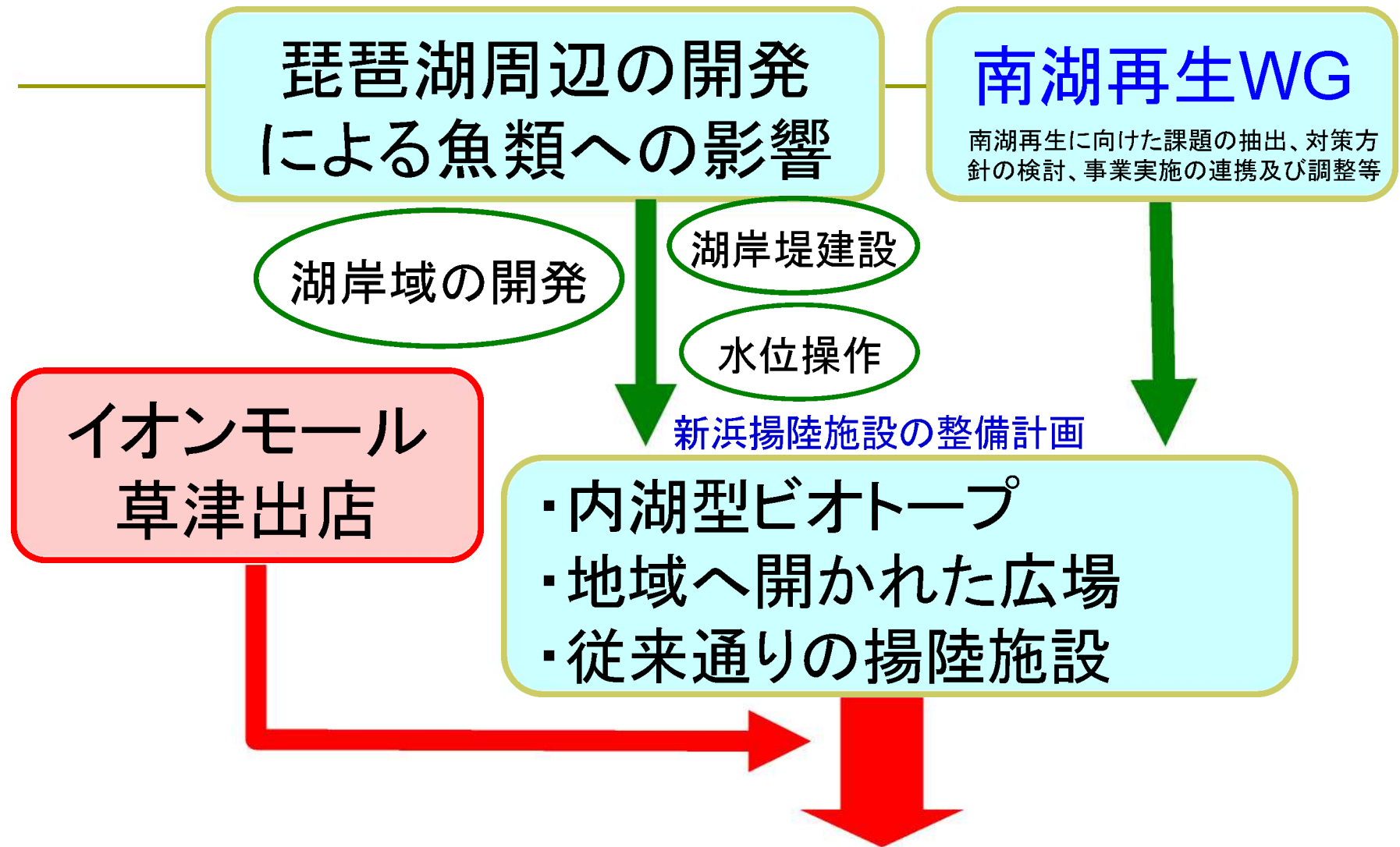
2. 新浜ビオトープ整備の経緯

イオンモール草津の出店計画が具体化



店舗造成のための盛土材として利用する旨で合意

3. 新浜ビオトープ整備に至る背景

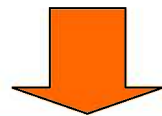


民間企業及び関係機関と連携した整備の実施

4. 新浜ビオトープ整備計画



- 面積 **約1.5ha** の広大なビオトープ
- 人工湖岸が多く、ビオトープの対象となる場所が **希少**

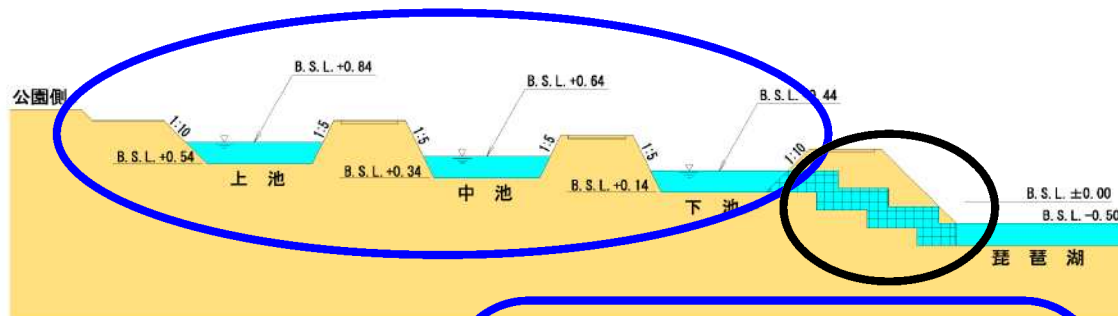


南湖では貴重な湖辺の**再生**

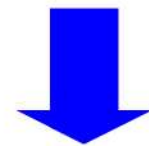
5. ビオトープ内の各施設

ビオトープ整備方針

- 琵琶湖在来魚の生育場（主にコイ・ナ類）
- 維持管理が容易



- ①ため池：棚田状に3段
：水深30cm
- ②魚道：階段式
(1段当たり10cm)
- ③取水ポンプ：2基設置
(産卵期と冬期)



南湖再生事業を**低コスト**で実施

6. ビオトープ整備後の状況



平成21年4月頃(全景)



平成22年6月頃(全景)



平成21年5月頃(中池)



平成22年6月頃(上池)

7. 干上げ時魚類調査結果

【平成20年度調査結果】平成20年12月

干上げ時魚類調査結果

魚種		数量(匹)	割合(%)
フナ類	成魚	409	63.3
	稚魚	3	0.5
コイ		5	0.8
ワタカ		2	0.3
ヨシノボリ		1	0.1
オオクチバス		144	22.3
ブルーギル		82	12.7
合計		646	100



捕獲したギンブナ



捕獲したワタカ



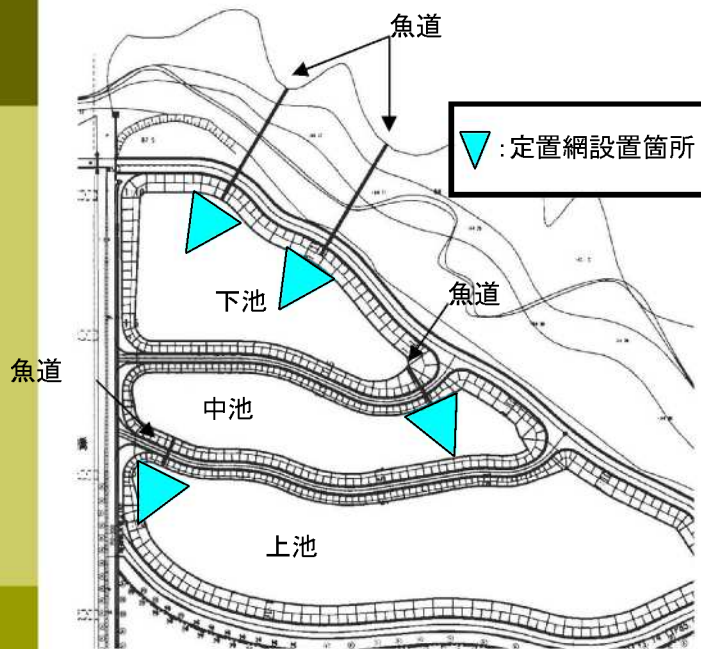
捕獲したオオクチバス・ブルーギル

外来種が比較的多いため、対策を検討

8. ビオトープモニタリング調査結果

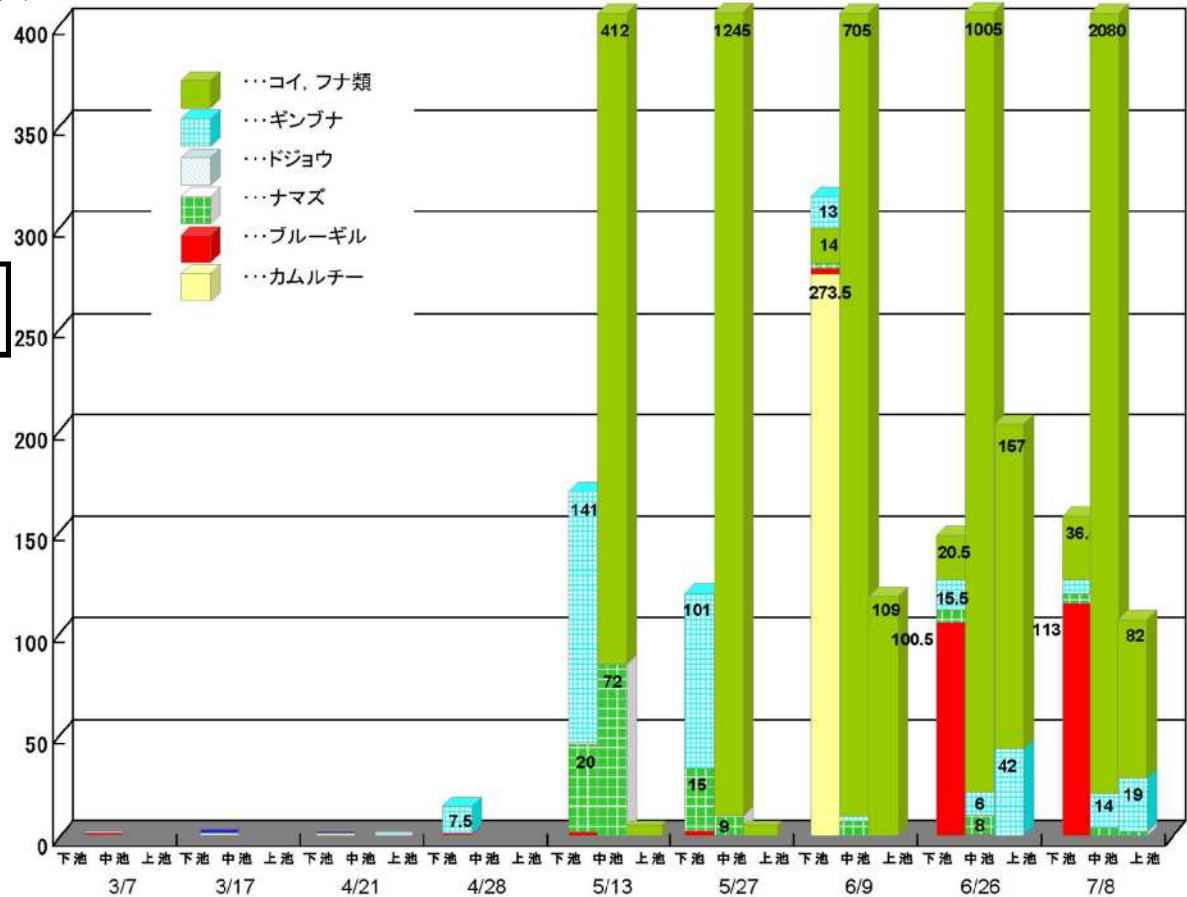
【平成21年度調査結果】

魚類捕獲調査結果



※魚道の落差を20cmとする

(匹)



※下池は定置網2箇所の調査結果の平均値を採用した

コイ・フナ類が多く、主に在来種に活用されている

9. 地元等との協働



平成20年10月18日

出前講座実施

(草津市老上学区4~6年生

36名対象)

平成21年11月7日

琵琶湖水辺の環境展

(イオンモール草津来客者に事業のPRを実施)



10. 今後の方針と課題

今後の方針

- ・関係機関等と連携した新浜ビオトープの管理運営

今後の課題

- ・ビオトープ管理運営のための協働体の立上げ等
- ・外来魚対策
- ・ビオトープ機能の評価

1 1. 終わりに



ご静聴ありがとうございました。